

## イノベーション・コースト構想 個別検討会の中間整理の概要

### (1) ロボット研究・実証拠点整備等に関する検討会 中間整理

- 災害対応ロボットの実証・評価(テストフィールド)機能だけでなく、地元ニーズが強い県内企業向けの支援機能(技術支援、販路開拓支援等)の整備の必要性を明記。
- まずは既に顕在化しているニーズ(例 無人航空機)を踏まえて立ち上げ、「福島浜通りロボット実証区域<sup>※</sup>」の結果等を反映して拡張。その際、ロボットコンテストも開催。

※「ロボット新戦略」(本年1月ロボット革命実現会議)に盛り込まれた災害対応ロボット等の実証プロジェクト。福島県内の橋梁、トンネル及びダム・河川その他山野等を利用してロボットの実証を実施。本年4月1日から実証を希望する企業等に対して公募開始予定。

### (2) 国際産学連携拠点に関する検討会 中間整理

- 産学官共同研究室：ニーズが明確になった、(a)ロボット技術、(b)放射線の知識が必要な研究分野を対象とした共同研究施設を設置。
- 大学教育拠点：上記(b)の共同研究施設を拠点に構築を図る。
- 技術者研修拠点：廃炉人材育成、防災研修について民間主体で検討。
- 情報発信拠点：県に研究会を立ち上げて検討。
- その他：福島県ハイテクプラザ浜通り分所の設置を検討。

### (3) スマート・エコパークに関する検討会 中間整理

- 今後実現可能性がある新たなリサイクル事業(例：炭素繊維再資源化事業、太陽光発電設備・バッテリー再資源化事業、石炭灰混合材料製造事業、小型家電リサイクル事業など)の実証プロジェクトの推進等を念頭に、県に研究会を設置。

◆イノベーション・コースト構想具体化に向けて設置した個別検討会において、これまでの検討結果を中間整理。今後、「イノベーション・コースト構想推進会議」において議論し、検討を深め、検討結果を「福島12市町村の将来像に関する有識者検討会」に報告。

## ロボット研究・実証拠点整備等に関する検討会 中間整理

### 概要

- ロボットテストフィールドの利用ニーズは限定的であるが、今後一定の拡大が期待できること、地元ではテストフィールド拠点による県内ロボット事業者支援への期待が強いことを確認。
- これを踏まえ、県内ロボット事業者支援とテストフィールド提供を行う拠点整備の必要性を明記。

### 短期

- 既に顕在化しているニーズと今後のニーズ見込みを踏まえたロボットテストフィールドを整備し、県内ロボット事業者支援(技術支援、販路開拓支援等)機能も付与。
- 「福島浜通りロボット実証区域」との連携や、ロボットコンテストの開催等を実施し、テストフィールドのニーズ取込み、機能・施設の拡充を図る。

※フィールド整備においては、ロボット開発のための共同研究施設(右記)との一体化も含め検討

### 中期

- 拠点の運用を通じて、ロボットに関する規制上の課題について整理し、ロボット事業者・研究者を呼び込む規制上の特色を打ち出すべく検討。
- 今後、防災に関する政策・枠組みの強化に併せて、段階的に災害対応能力向上拠点としての機能強化・拡充を図る。

### 将来

ロボット産業の集積、防災力強化のための一大拠点化を実現

## 国際産学連携拠点に関する検討会中間整理

### 概要

- 新たな産業構築と浜通り地域の復興をリードする人材を育成すべく、産学官共同研究室、大学教育拠点、技術者研修拠点、情報発信拠点を整備していく必要性を明記。

### 短中期

#### 【産学官共同研究室】

- ニーズが明確になった以下の施設を整備。
  - ①地元企業等との緊密な連携によるロボット技術開発のための共同研究施設。
  - ②放射線の知識が必要な、廃炉、環境回復等の研究分野を対象とした先端的共同研究施設。
- 廃炉国際共同研究センターとも緊密に連携。

#### 【大学教育拠点】

- 上記②の共同研究施設を起点として構築。
- 企業、研究機関、高専等との連携強化や連携大学院の構築等を通じて、拠点機能を強化。

#### 【技術者研修拠点】

- 廃炉人材育成や防災研修を対象候補とし、民間主体で検討した上で、国とともに拠点を具体化。

#### 【情報発信拠点】

- 福島県において研究会を立ち上げ、具体的な絵姿を検討した上で、国とともに拠点を具体化。

#### 【その他】

- 福島県ハイテクプラザ浜通り分所設置を検討。
- 浜通りにおける拠点間のコーディネート機能等を担う主体の具体化に向けて、国と福島県で検討。

### 将来

新たな産業基盤構築と復興人材育成を同時に実現。

## スマート・エコパークに関する検討会中間整理

### 概要

- 今後浜通り地域で実現可能性がある、新たなリサイクル事業を提示。
  - 炭素繊維再資源化事業
  - 太陽光発電設備・バッテリー再資源化事業
  - 石炭灰混合材料製造事業
  - 小型家電リサイクル事業 など
- さらなる事業創出や技術実証、人材育成等を進めるため、新たなプラットフォームを設置する方向性を明記。

### 短期

- 福島県において、リサイクル関連事業者や研究機関、自治体、国等が参画した「ふくしま環境・リサイクル関連産業研究会(仮称)」を設置。
- 本研究会を通じて、今回提示するリサイクル事業をはじめ、環境・リサイクル事業の実証プロジェクト等を推進。

### 中期

- 上記実証プロジェクト等の結果を踏まえつつ、環境・リサイクル事業の創出・集積を推進。
- この取組みを支えるべく、大学・高専等や人材育成拠点とも連携し、環境・リサイクル関連産業の人材育成も実施。

### 将来

浜通り地域を環境・リサイクル産業の集積地に。